

令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立宮田小学校 係長 大川 亮子

- 1 派遣期日 令和5年8月1日(火)
- 2 派遣先 会場名 山形国際交流プラザ
所在地 山形県山形市平久保100番地
- 3 研修内容 山形県公立小中学校事務職員研究協議会夏季研修会

研究テーマ

築きあげよう！子どもの豊かな学びと育ちを支援する学校事務
～ 山形っ子の笑顔のために、ともに かかわり つなぐ ～

研修テーマ

「企画力・調整力・提案力を身につけ、学校運営に貢献しよう」

山形県公立小中学校事務職員研究協議会では、2011年に研究ビジョン「やまがた花笠プラン」を策定し、時代の変化に合わせて改定を行いながら、創造的な学校事務の実践に取り組んでいる。

夏季研修会は、研究テーマ「築きあげよう！子どもの豊かな学びと育ちを支援する学校事務」のもと、有識者による講演等を行い、課題の共有化を図るとともに、学校事務職員の資質向上を図り、学校教育の発展に寄与することを目的に開催された。

(1) 基調報告

山形県公立小中学校事務職員研究協議会 井上元会長

- ・山形県公立小中学校事務職員研究協議会のミッションは『子どもの豊かな育ちを支援する』こと。令和3年度から『築きあげよう！子どもの豊かな学びと育ちを支援する学校事務 ～山形っ子の笑顔のために、ともに かかわり つなぐ～』のテーマを掲げ研究活動を続けている。
- ・学校長の期待する”つかさどる”学校事務職員とは「提案する事務職員」。組織の一員として自分の頭で考え行動する事務職員である。専門性・主体性・積極性を生かし、事務職員にしかできないことを考え、行動することが期待されている。
- ・県研修センターの講座に学校事務職員対象の講座を開設することを要望している。
- ・「学校事務の共同実施の推進」、「教員の業務負担削減」（山形っ子の豊かな育ち、学びにつながる）、「共同学校事務室の設置、共同学校事務室の実施要項・業務要項」の策定については力をいれて取り組んでいきたい。
- ・新たな取り組みに対して、若手事務職員は不安、ベテラン事務職員は負担感を感じている。しかしながら、現状維持では先に進めない。不安を期待に、負担感を達成感につながるような活動をしていきましょう。「ともに かかわり つなぐ そしてすすめ(挑戦)」事務を「つかさどる」職として子どもたちのために、もう一歩先へ学び続けて行きましょう。

(2) 講演会

演題 「企画力・調整力・提案力と事務の組織化」

講師 盛岡大学文学部児童教育学科 教授 福島 正行 氏

① なぜ、今、企画力・調整力・提案力なのか

社会の変化を受けて、学校も変化していく必要がある。学校は自律性を求められており、変化への対応もまた、自律的に進めていく必要がある。近年、個々の子どもの学び、個々の子どものバックボーンの違いなどに応じた学校教育が求められている。変化に対応する学校には、柔軟な学校マネジメントを可能にする組織が不可欠である。教員とは異なる専門領域を持つ事務職員が、教員と

は異なる視点で企画、調整、提案し、マネジメントに参画することは、組織力を高める上で極めて重要である。

② 学校におけるカリキュラム・マネジメント

教育課程のマネジメントは、教育課程のPDCAサイクルや単元や授業のPDCAサイクルだけを意味するものではない。これらは教育課程のマネジメント全体のうちの一部である。学校教育目標との関連や、組織構造、学校文化との関連、教員、家庭・地域住民、行政などとの関連をも含み込んだ奥深い営みである。「ひと」「こと」「もの」「場」のかかわりや、つながりが重要である。学校事務職員は、学校事務を切り口として、教育をよりよくしていくためのかかわりやつなぐことに関する「当事者」といえる。

③ 学校マネジメントと学校事務職員

学校事務の働きは、学校組織全体に大きな影響力をもつ。学校事務職員は、「第一線の教職員」としての視点を持ちながら、ミドルリーダーあるいは校長の補佐役としての視点が必要である。総務・財務の専門職、「教員とは異なる」、一人職（言い換えれば一人ですべての子どもをカバーする）といった特色は弱みではなく強みとも言える。リソースマネージャーとしての強みを生かして、教員、校長、地域へのかかわりを深くし、それをベースとして企画・調整・提案し、学校マネジメントに参画することが期待されている。

④ 事務の組織化が学校事務職員の企画力・調整力・提案力を高めるか

山形県の学校事務研究協議会のアンケートから・・・

共同実施は「情報交換・共有」、「組織としての意見は教育委員会・学校全体の改善につながる」「小中連携」「事務の円滑化・標準化に期待」「互いのスキルアップ」に効果あり。

<「協働」と「共同」>

教員・他職種との協働

- ・共有性：目標共有しているか
 - ・対等性：お互いの自主性・自律性を発揮し、互いを尊重しているか
 - ・補完性：短所を長所で互いに補完し、相乗効果を生んでいるか、新しい効果を生んでいるか
- 職務遂行能力だけでなく、人間関係形成能力が必要

地域の学校事務職員と共同で・・・

・学校事務の適正化・平準化・・・だけでなく、別表2を利用しながら、高度化のための手立てを創造する。そのために、小さな成功体験を語り合う。

※別表2は職務内容は示されても、目指されるべき水準は明らかではない。

- ・もう一方で、現在の仕事をいかに「捨てるか」（誰か、何かに任せるか）を考える＝業務改善
- ・ヨコの連携を活用しながら、地域全体の教育を学校事務を切り口として共同で検討し、提案していく。
- ・大事なこと：自身の手で学校を動かしていくおもしろみが、職全体として共有できれば。

(3) 交流タイム

講演後、「研修で学んだことを共有してさらに理解を深め、県内外の仲間との新たな出会いや交流の場に・・・」とのことで近くの席の方5～6人のグループをつくり、研修の振り返りを中心に講演を聞いて感じたことや、やってみたいと思ったことについて共有し、また、日頃の悩みや取り組んでいることなどを話し合う時間が設けられていた。ベテラン事務職員のグループに加えていただき、山形県の共同実施について、日々の仕事について、直接話を伺うことができた。山形県の共同実施については市町村によって学校数も差があるため共同実施も難しいところがあるそう。新採支援という部分ではとても助けられているということだった。

4 感想

茨城県外の学校事務職員の方々と直接お話しでき、情報交換できたことは、貴重な経験だった。今回の研修では、学校教育目標の達成に向けて、事務職員が積極的に学校運営に参画することへの期待を強く感じた。個人ではもとより、日立市の学校事務共同実施の組織としても、業務改善を考えつつ、先生方や教育委員会と連携し、子どもたちのために活動をしていきたい。